

宇治map



散策メモ

紫式部

藤原道長の娘彰子の女房として宮仕えをしている時に、世界最古の長編小説「源氏物語」を書いた。さらに宮中の様子を書いた「紫式部日記」も残している。

散策メモ

源氏物語宇治十帖

源氏物語全54帖の内、最後の10帖はここ宇治が舞台となっている。表向きは光源氏の子とされているが、実は柏木(光源氏の息子の親友)と女三宮(光源氏の二番目の正妻)との間にできた、不義の子「薫」と、光源氏の孫「匂宮」が、宇治八の宮の三姉妹をめぐって織りなす悲恋物語だ。言わずもがなだが、内容、人生観、価値観がとてもおもしろい。

宇治上神社に祀られている菟道稚郎子(うじのわきいらつこ)の墓。応神天皇の子で仁徳天皇の弟にあたる。世界三大墳墓の一つである仁徳天皇陵と比べるとやはり寂しいものがある。

広い境内に、つつじ、しゃくなげ、あじさい、ハス、などが咲く花寺。つつじ・しゃくなげ園は、4月中旬～5月中旬、あじさい園は、6月上旬～7月上旬、ハスは6月下旬～8月上旬が見頃。

宇治にゆかりのある人物、菟道稚郎子(うじのわきいらつこ)と応神天皇、仁徳天皇を祀る神社。菟道稚郎子を神の使いである「うさぎ」が道案内したことから、うさぎをモチーフにしたおみくじや絵馬がある。本殿は日本最古の神社建築。

藤原頼通によって開かれた寺。元々宇治は貴族の別荘が多く営まれる地で、平等院も父道長の別荘「宇治殿」を寺院に改めたのが始まりと言われている。

